

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-049286

(43)Date of publication of application : 20.02.2001

(51)Int.Cl.

C11B 9/00
A61K 7/46

(21)Application number : 11-221887

(71)Applicant : POLA CHEM IND INC

(22)Date of filing : 05.08.1999

(72)Inventor : TANIZAWA SHIGEJI
SUGA CHIHOKO
GOTO MASAHIRO
OKUDA TAKEHIRO
ISHIDOYA TOYOMASA

(54) PERFUME COMPOSITION FOR STRESS RELAXATION AND COMPOSITION CONTAINING THE SAME

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a perfume composition excellent in stress relaxation action, especially in relaxing the stress due to lack of sleep, by using at least one compound selected from among nerolidol, hedion, mayol, lilial, helional, phenylethyl alcohol, and a-hexylcinnamic aldehyde.

SOLUTION: The compound is compounded into a perfume composition used for perfuming cosmetics or fragrance products. When two or more compounds are combined, a composition containing ingredients, each in an amount of 5 to 15 wt.%, exhibits an especially remarkable action. Preferably, the composition is adjusted to a perfume of the so-called aquafloral note. In order to impart a perfume of the aquafloral note, nerolidol, hedion, mayol, or lilial is mixed with the same amount of helional or the like, or phenylethyl alcoholol is mixed with almost the same amount of a-hexylcinnamic aldehyde.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-49286

(P2001-49286A)

(43) 公開日 平成13年2月20日 (2001.2.20)

(51) Int.Cl.⁷

C 1 1 B 9/00

識別記号

F I

C 1 1 B 9/00

テーマコード(参考)

C 4 H 0 5 9

D

K

T

X

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 5 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号

特願平11-221887

(22) 出願日

平成11年8月5日 (1999.8.5)

(71) 出願人 000113470

ポーラ化成工業株式会社

静岡県静岡市弥生町6番48号

(72) 発明者 谷沢 茂治

神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1

ポーラ横浜研究所内

(72) 発明者 菅 千帆子

神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1

ポーラ横浜研究所内

(72) 発明者 後藤 正弘

神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1

ポーラ横浜研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ストレス緩和用の香料組成物及びそれを含有する組成物

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、誰もが簡単にできるストレスの緩和手段、取り分け睡眠不足のストレス緩和手段を提供することを課題とする。

【解決手段】 ネロリドール、ヘディオン、マイヨール、リリアール、ヘリオナール、フェニルエチルアルコール及びα-ヘキシルシンナミックアルデヒドから選ばれる1種乃至は2種以上を含むことを特徴とする、ストレス緩和用の香料組成物を化粧品などの香粧品に含有させる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ネロリドール、ヘディオン、マイヨール、リリアル、ヘリオール、フェニルエチルアルコール及び α -ヘキシルシンナミックアルデヒドから選ばれる1種乃至は2種以上を含むことを特徴とする、ストレス緩和用の香料組成物。

【請求項2】 香の基調がアクアフローラルであることを特徴とする、請求項1に記載のストレス緩和用の香料組成物。

【請求項3】 ネロリドール、ヘディオン、マイヨール、リリアル、ヘリオール、フェニルエチルアルコール及び α -ヘキシルシンナミックアルデヒドから選ばれる1種乃至は2種以上の含有量が、香料成分全量に対して60%以上であることを特徴とする、請求項1又は2に記載のストレス緩和用の香料組成物。

【請求項4】 ストレスが睡眠不足であることを特徴とする、請求項1～3の何れか1項に記載のストレス緩和用の香料組成物。

【請求項5】 請求項1～4何れか1項に記載のストレス緩和用の香料組成物を含有することを特徴とする、香粧品。

【請求項6】 化粧料又はフレグランスであることを特徴とする、請求項5に記載の香粧品。

【請求項7】 ストレス緩和用であることを特徴とする、請求項5又は6に記載の香粧品。

【請求項8】 ネロリドール、ヘディオン、マイヨール、リリアル、ヘリオール、フェニルエチルアルコール及び α -ヘキシルシンナミックアルデヒドから選ばれる1種乃至は2種以上を含有する、ストレス緩和用の化粧料又はフレグランス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、化粧料やフレグランスに好適な香料組成物及びそれを含有する香粧品に関する。

【0002】

【従来の技術】近年はストレス社会であり、そこに生きる現代人は多かれ、少なかれ何かのストレスの負荷の元に生きている。このようなストレスは、人間生活に少なからぬ影響を与え、例えば、免疫力の低下、癌の発生率の増加、ノイローゼなどの精神的障害の増加と言った、病態に関することから、体調の不調、疲労感、やる気の消失と言った未病に至るまで、人間生活の不都合の大きな原因となっている。このようなストレスの中で特に重篤なものは、睡眠不足によるストレスである。これは、社会生活の夜型への移行や残業の急増に見られる労働環境の悪化に伴って深刻な問題となりつつある。睡眠不足によるストレスは、睡眠不足による生理的な不調、不快感によるストレスとともに睡眠不足そのものが生体に及ぼすストレスも存在し、その影響は非常に大きいものとな

る。このようなストレスに対する対応としては、一つには必要な睡眠時間の確保が挙げられるが、ストレス負荷量が多すぎると、睡眠障害を生じてしまうため、このような必要な睡眠時間の確保は難しい場合が少なくない。このような場合には、第一ステップとして、ストレスそのものを緩和することが必要となる。このようなストレス緩和策としては、瞑想やリラクゼーションと言ったものが知られているがこの様な技術には習熟が必要であり、誰もが簡単にできるストレスの緩和手段が求められていた。

【0003】一方、香料成分がストレスの緩和の一助になることは古くより言われていることであるが、香料成分の何がこの様な作用を有するかは特定されていなかったし、この様な作用が再現性良く観察されたわけではなかった。更に、ネロリドール、ヘディオン、マイヨール、リリアル、フェニルエチルアルコール及び α -ヘキシルシンナミックアルデヒドは香料成分として広く知られていたし、香料として使用されていたが、このものがストレス緩和作用、取り分け睡眠不足のストレス緩和作用を有することは全く知られていなかった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、このような状況下為されたものであり、誰もが簡単にできるストレスの緩和手段、取り分け睡眠不足のストレス緩和手段を提供することを課題とする。

【0005】

【課題の解決手段】このような状況に鑑みて、本発明者らは、誰もが簡単にできるストレスの緩和手段を求めて鋭意研究努力を重ねた結果、ネロリドール、ヘディオン、マイヨール、リリアル、ヘリオール、フェニルエチルアルコール及び α -ヘキシルシンナミックアルデヒドに優れたストレス緩和作用、しかも、睡眠不足によるストレス緩和作用に優れることを見いだした。更に検討を重ねた結果、これらの成分を組み合わせると香料組成物に含有させ、アクアフローラル調に調香すると、更に如実な効果が得られることを見だし、発明を完成させるに至った。以下、本発明について、実施の形態を中心に更に詳細に説明を加える。

【0006】

【発明の実施の形態】(1)本発明のストレス緩和用の香料組成物

本発明のストレス緩和用の香料組成物は、ネロリドール(3, 7, 11-トリメチル-, 6, 10-ドデカトリエン-3-オール)、ヘディオン(メチルジヒドロジャスモネート)、マイヨール(シス-p-イソプロピルシクロヘキシルメタノール)、リリアル(p-ターシャリーブチルヒドロシンナミックアルデヒド)、ヘリオール(α -メチル-, 3, 4-メチレンジオキシハイドロシンナミックアルデヒド)フェニルエチルアルコール及び α -ヘキシルシンナミックアルデヒドから選ばれる1種乃至は2種以上を含有することを特徴とする。これら

の成分は何れも香料成分として広く知られており、化粧料やフレグランスで既に使用されている。これらは単独でもストレスの緩和作用を有しているし、これ自身或いは他の香料と組み合わせてもこのような作用を発揮する。このような作用は、これらから選ばれる2種以上を組み合わせた場合が著しく、中でもこれらの成分をそれぞれ5～15重量%づつ含有するような組成物が特に著しく、本発明では、このような組成物を本発明のストレス緩和用の香料組成物として使用するのが特に好ましい。更には、その香の調子としては、みずみずしい花を想わせる、いわゆるアクアフローラル調のものに調香しておくのが特に好ましい。これらを組み合わせアクアフローラル調の香に調香するには、ネロリドール、ヘディオ

ン、マイヨール、リリアルとヘリオナルの等量混合物、フェニルエチルアルコール及び α -ヘキシルシンナミックアルデヒドを等量に近い組成比で混合しておけば良い。ここで、本発明で言う香料組成物とは、化粧料やフレグランス製品の賦香のために用いる香料を含む組成物であって、香料成分以外には、エタノールや水などの希釈媒を含有することができる。本発明の香料組成物に於ける、本発明の前記ストレス緩和用の香料成分の含有量は、40～80重量%が好ましく、50～70重量%が更に好ましい。

【0007】(2) 本発明の香粧品

本発明の香粧品は、上記本発明のストレス緩和用の香料を組成物を含有することを特徴とする。本発明に於ける香粧品とは、香料組成物を含有する製品であって、化粧料やフレグランスに類似した使用形態で使用される組成物を意味し、例えば、基礎化粧料、メイクアップ化粧料、フレグランス、皮膚外用医薬等が好ましく例示できる。ここでフレグランスとしては、オーデコロン、オードトワレ、香水のみならず、ルームフレグランスや練り香、香、線香等も含んで例示できる。本発明の香粧品としては、基礎化粧料が特に好ましく、中でも使用感、或いはその含有成分としてストレスの影響を軽減できる要素を有する基礎化粧料が特に好ましい。これは、このような化粧料に於いて相乗的に本発明の効果を発揮できるからである。特に好ましい共存成分としては、ブクリョウの抽出物が例示できる。これは、この成分が、生体の環境をストレスの負荷に負けないように整える作用を有するからである。この成分の本発明の香粧品である化粧料に於ける好ましい含有量は、0.01～0.1重量%である。本発明の香粧品に於ける、上記本発明の香料組成物の好ましい含有量は0.01～20重量%であり、更に好ましくは0.1～10重量%である。これらの香粧品を使用することにより、睡眠不足などによるストレスの影響を軽減できる。本発明の香粧品に於いては、この様な必須の成分や好ましい成分以外に、通常香粧品で使

用される任意成分を含有することができる。このような任意成分としては、例えば、スクワラン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等の炭化水素類、ホホバ油、カルナウバワックス、オレイン酸オクチルドデシル等のエステル類、オリーブ油、牛脂、椰子油等のトリグリセライド類、ステアリン酸、オレイン酸、リチノレイン酸等の脂肪酸、オレイルアルコール、ステアシルアルコール、オクチルドデカノール等の高級アルコール、スルホコハク酸エステルやポリオキシエチレンアルキル硫酸ナトリウム等のアニオン界面活性剤類、アルキルベタイン塩等の両性界面活性剤類、ジアルキルアンモニウム塩等のカチオン界面活性剤類、ソルビタン脂肪酸エステル、脂肪酸モノグリセライド、これらのポリオキシエチレン付加物、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル等の非イオン界面活性剤類、ポリエチレングリコール、グリセリン、1,3-ブタンジオール等の多価アルコール類、増粘・ゲル化剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、色剤、防腐剤、粉体等を好ましく例示できる。これらの成分を常法に従って処理することにより、本発明の香粧品は製造することができる。

【0008】

【実施例】以下に、実施例を挙げて、本発明について更に詳細に説明を加えるが、本発明が、これら実施例にのみ限定を受けないことは言うまでもないことである。

【0009】<実施例1>本発明の香料組成物を構成する、ネロリドール、ヘディオ、ン、マイヨール、リリアル、ヘリオナル、フェニルエチルアルコール及び α -ヘキシルシンナミックアルデヒドについて、その睡眠不足ストレスの緩和作用をヒトを用いた寝不足モデル試験により確かめた。即ち、強制的に24時間睡眠を妨げて作製したヒト睡眠不足モデルに於いて、香料成分を存在させた場合と存在させなかった場合で、尿中の17-ヒドロコルチコイド量に対する17-ケトステロイド量の100分率(S/OH)を求めた。陰性対照としては、香料成分を存在させなかったものを、陽性対照としては、十分な睡眠をさせた場合を用いた。又、比較例1としてはリナロールを、比較例2としては α -ピネンを用いた。香料成分の使用量は、これら成分の60重量%エタノール溶液を作製し、これの0.01gを3立米の部屋に噴霧して行った。17-ヒドロコルチコイドと17-ケトステロイドの定量は、住友金属バイオサイエンス株式会社に依頼して行った。結果を表1に示す。これより、本発明の香料組成物の香料成分には優れたストレス緩和作用があることがわかる。

【0010】

【表1】

香料成分	S/OH	備考
ネロリドール	85	
ヘディオン	81	
マイヨール	84	
リリアル	85	
ヘリオナール	84	
フェニルエチルアルコール	88	
α -ヒドロキシシンナミックアルデヒド	83	
香料成分無し	77	陽性対照
睡眠充分	103	陽性対照
リナロール	79	比較例1
α -ピネン	78	比較例2

【0011】＜実施例2＞下記に示す処方に従って、本発明の香料組成物を作製した。即ち、処方成分を良く混合し、香料組成物1を得た。このものの香の調子はアクアフローラル調であった。これを上記のヒト睡眠不足モデルで効果を見たところ、S/OHで101であり、本発明の香料組成物としては、ネロリドール、ヘディオン、マイヨール、リリアル、ヘリオナール、フェニルエチルアルコール及び α -ヘキシルシンナミックアルデヒドを複数混合して、更に好ましくは、これら7種が全て含む形態であることが適切であることがわかる。更に、香の調子としては、アクアフローラル調が好ましいこともわかる。

ネロリドール

10重量部*30

エタノール

40 重量部

香料組成物1

10 重量部

水

49.9重量部

ポリオキシエチレン(60)硬化ひまし油

0.1重量部

【0013】＜実施例4＞以下に示す処方に従って、油中水クリームを作成した。即ち、イ、ロの成分をそれぞれ80℃に加熱し、イにロを徐々に加え、乳化し、ホモジナイザーで粒子を均一化した後、攪拌冷却してクリーム1を得た。ここでローズマリーのエッセンスとしては100gのローズマリーの地上部に11の1,3-ブタンジオールを加え、抽出を行い、濾過したものを用い、ツボクサのエッセンスとしては100gのツボクサの全※

イ

蔗糖脂肪酸エステル

0.5 重量部

ワセリン

1 重量部

ラノリン

3 重量部

流動パラフィン

8 重量部

低粘度シリコーン

30 重量部

ステアリルアルコール

0.5 重量部

ステアリン酸

0.55重量部

*ヘディオン

10重量部

マイヨール

10重量部

20 リリアル

5重量部

ヘリオナール

5重量部

フェニルエチルアルコール

10重量部

α -ヘキシルシンナミックアルデヒド

10重量部

エタノール

40重量部

【0012】＜実施例3＞以下に示す処方に従って、オーデコロンを作製した。即ち、処方成分を良く混合し、5℃で1ヶ月熟成し、濾過してオーデコロンを得た。このものを使用することにより、寝不足モデルに於いて、S/OH102を認めた。

※草に11の1,3-ブタンジオールを加え、抽出を行

い、濾過したものを用い、ブクリョウのエッセンスはブクリョウの菌糸の部分100gにエタノール11を加えて抽出し、濾過した後、溶媒を留去したものを用いた。このものの評価結果はS/OHで121であった。本発明の香料組成物はブクリョウの抽出物と共存下使用することが好ましいことがわかる。

7		8
ウンデシレン酸モノグリセリド	2	重量部
有機変性ベントナイト	2	重量部
香料組成物	1	重量部
ロ		
1, 3-ブタンジオール	5	重量部
グリセリン	20	重量部
ローズマリーのエッセンス	1	重量部
ツボクサのエッセンス	0.5	重量部
ブクリョウのエッセンス	0.1	重量部
水酸化カリウム	0.05	重量部
水	24.8	重量部

【0014】＜実施例5＞下記に示す処方に従って、ルームフレグランスを作製した。即ち、処方成分を90℃に加熱し、攪拌して均一にし、金皿に詰めて冷却して、＊

＊ルームフレグランスを得た。このものはストレスをいやす作用のあるルームフレグランスであった。

香料組成物1	10	重量部
ポリエチレン	20	重量部
マイクロクリスタリンワックス	20	重量部
ジメチコン	30	重量部
スクワラン	20	重量部

【0015】

20＊トレスの緩和手段、取り分け睡眠不足のストレス緩和手段を提供することができる。

【発明の効果】本発明によれば、誰もが簡単にできるス＊

フロントページの続き

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード (参考)
A 6 1 K 7/46		A 6 1 K 7/46	A
	3 1 5		3 1 5 A
			3 1 5 Z
	3 4 5		3 4 5 Z

(72)発明者 奥田 剛弘
神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1
ポーラ横浜研究所内

(72)発明者 石戸谷 豊昌
神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1
ポーラ横浜研究所内

F ターム (参考) 4H059 BA12 BA14 BA20 BA35 BB05
BB06 BB13 BB14 BB15 BB18
BB23 BB44 BB45 DA09 EA33